

阿弥陀岳（標高 2805m）ルートに関する考察

文責：石川高明 090-2315-2885

原村にある八ヶ岳阿弥陀岳登山ルートは主に 3 つ

1) 御小屋尾根ルート

原村開山祭に用いる、阿弥陀岳西稜を御小屋山まで忠実にトレースする長いルート。3 つの中では唯一の一般登山道。信州 山のグレーディング（無雪期晴天時）によると体力度 4 技術的難易度 C のコース。

夏は下山路に使う登山者が多い。上部の西ノ肩の小さな岩場と、そこからの下り 30 分程が急斜面であるが、その他は難易度は高くない。むしろ、途中で小屋がないのが難点。水場は、ほぼ中間のルートから 5 分外れた所に不動清水があり、冬もめったに枯れない。なお、舟山十字路に下山する登山者は比較的少ない。これは、美濃戸口～行者小屋～（赤岳）～阿弥陀岳～御小屋山と縦走する登山者が、最後は御小屋山から再び美濃戸口（バス停）に下山する為。（冬期については後述）

2) 南稜ルート

舟山十字路から立場川旭小屋（又は広河原）から尾根に取り付き、立場岳～青ナギ～岩稜の P1、P2、P3、P4 を経て阿弥陀岳山頂に至るバリエーションルート（一般のルートとは違う、より困難な登路）。

冬期、ロープを用いた氷壁と岩稜のミックス登山の入門コースとして、このコースは有名で、夏よりも冬に好んで登られる。難易度は其れ程でもないが、P3 と言われる岩峰下を回り込むようにして、『桶状の凍った沢（氷壁）をロープを利用して、2 ピッチ登攀する』のが、このコースの核心部となっている。（秋期写真あり）この部分は、北斜面で氷が良く発達し、滑り易いので注意が必要だ。

都心から来る登山者は、舟山十字路に昼前後に到着し、立場岳から青ナギ周辺にテントを張り一泊。翌朝に山頂を抜けて、御小屋山ルートか中央稜ルート経由で舟山十字路に戻ってくるのが通常パターンである。その為、舟山十字路は冬の方が利用される。

※バリエーションルートの為、信州 山のグレーディングには記載無し

3) 中央稜ルート

上記冬期南稜ルート経由の下山や夏期のバリエーションルートとして使われる。

夏期、阿弥陀岳山頂から下山すると、西ノ肩の先で御小屋山ルートと中央稜ルートの分岐があり、以降急斜面であるが比較的明瞭なルートがある。ただし、舟山十字路からの登路の場合、中央稜の取り付きが不明瞭で迷う。3 つのルートの中で一番登山者が少ない。

